

2019（平成31）年度
事業計画書

学校法人 石田学園

目 次

| | |
|--------------------|---|
| はじめに | 1 |
| I. 教育・研究・学修支援 | 2 |
| II. 学生生活支援 | 4 |
| III. 国際交流 | 5 |
| IV. 就職支援 | 5 |
| V. 地域貢献・社会連携・社会貢献等 | 6 |
| VI. 入試・広報活動 | 6 |
| VII. 施設設備・整備計画 | 7 |

はじめに

広島経済大学は昭和 42 年、中国四国地方唯一の経済学部経済学科の大学として入学定員 150 名でスタートした。現在は経済学部の中に 5 学科を擁し収容定員 3,400 名の単一学部では日本でも有数の規模を誇る大学となっている。

平成 31 年度から 50 年維持してきた単一学部から、「経済学部」「経営学部」「メディアビジネス学部」の 3 学部へ改組転換を行い学科特性が発揮できる体制とした。

建学の精神は中国の『礼記』に記された「和を以て貴しと為す」と定め、この建学の精神を体現するため、広島経済大学を開学した初代学長石田成夫は、立学の方針を「明德」と定めた。

「明德」とは、天から受けた靈妙な徳性を意味し、人間が本来持っている「曇りのない本性」を表現している。

本学では、建学の精神、立学の方針にもとづき、学則第 3 条に「正義と勤労を愛し、品格高く責任を重んじ、もって国家社会の発展に貢献し得る人材の育成」と定めている。この育成すべき人材像を、現代社会のニーズをふまえて『「ゼロから立ち上げる」興動人』とした。「ゼロから立ち上げる」興動人とは、「既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材」のことで、このような人材を育成することによって、日本の経済、文化、スポーツ等の発展に寄与することを目標としている。

現在、第二次教育改革（カリキュラムコーディネート会議（通称 CC 会議））の実現を目指し改革に取り組んでいる。学生たちに「勉強しなければ卒業できない」そして卒業時には「広島経済大学に入学してよかった」と言ってもらえる大学にしたい。

1 号館からスタートした施設は、現在、メディア情報センター、図書館、興動館やアカデミックcommons 明德館の他、セミナーハウス成風館、野球場や全天候型総合グラウンド等、学生にとって充実した教育環境が整備されている。

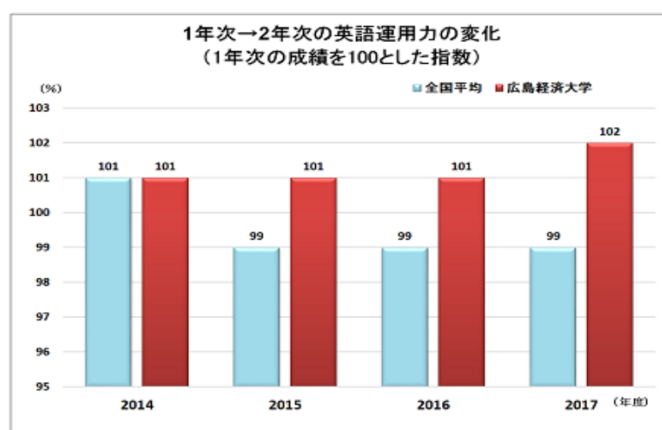


I 教育・研究・学修支援

1. 第二次教育改革の進捗状況

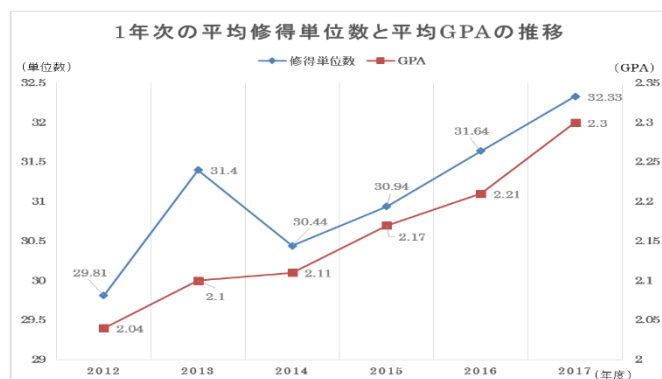
(1) 英語運用力の向上

2015年度から、1年次の英語科目において月～金曜まで毎日45分授業を受講させ、コミュニケーション力を鍛え、日常的に英語に慣れ親しむことで英語力を磨く環境を整えてきた。その結果1年次から2年次にかけて英語の運用力が伸びている。



(2) 修得単位数の増加と GPA 平均点の上昇

2014年度より、学生の質保証のため成績評価基準を公開し、厳格な成績評価を行ってきた。その結果、1年次の修得単位数並びに GPA は継続的に上昇している。



(3) 進級制度の進捗状況

入学初年次から授業を計画的に履修し学修の効果を高めるため、2014年度以降の入学生を対象として進級制度を導入した。3年次への進級認定の要件は、英語4単位、ゼミ科目6単位を含む51単位以上の修得を必要とする。

| 入学年度 | 入学時 学生数 | 進級判定 対象学生数 | 留年者数 | 卒業者数 |
|--------|------------|---------------|------|-------------|
| 2014年度 | 664 | 620 | 69 | 503 |
| 2015年度 | 661 | 626 | 62 | 2019年3月卒業予定 |
| 2016年度 | 726 | 702 | 85 | 2020年3月卒業予定 |

2. 興動館教育プログラム

興動館中長期計画「興動館教育プログラム NEXT10」に基づき、今後の興動館教育プログラムの更なる発展を目指し、次の取組みを行う。

(1) 興動館教育プログラムの周知

「人間力開発プログラム」は、本学の教育目的である『ゼロから立ち上げる』興動人を育成するための 3 つの教育プログラムのひとつである。このプログラムは、「興動館科目」と「興動館プロジェクト」からなる「興動館教育プログラム」により構成されている。「興動館教育プログラム」が「人間力開発プログラム」であるということを改めて学内に発信することで、これまで以上にプログラムへの理解を深めるとともに、さらなる協力体制の構築を目指す。

(2) プロGRESSシートの検証

人間力（社会人基礎力）の伸長度を測る「PROGRESSシート」の検証を行い、自分自身の成長を意識できるような内容に改訂する。

3. 教育支援

教育の質の保証と授業改善のために FD 研修会を年間 10 回開催する。授業計画（シラバス）を充実したものにするための FD 研修会、授業アンケート結果を基にした授業改善に係る FD 研修会、ICT の活用及びアクティブラーニング推進のための FD 研修会など。

4. IR の活用

IR を活用し、授業アンケート、学修アンケート及び卒業時アンケートを分析し、授業改善提案を行う。

2019 年度は本学での 4 年間の学びがどのように役立っているのか卒業生を対象にアンケートを行う。

また、ファクトブックの作成、中退ツリーの作成及び学修成果に係るデータの分析を行う。

5. 退学者（除籍者含む）対応

近年、退学者数、退学率とも減少傾向であったが、2018 年度は前年に比べ 0.2 ポイント増加した。（2019 年 1 月現在）

退学理由は進路変更が 44% で最も多く、勉学意欲の喪失が 21%、経済的理由（授業料未納による除籍を含む。）が 16% となっている。

勉学意欲の喪失による退学者の対策として、出席管理情報を活用し欠席回数が多い学生を早期に発見し、教務課、教育・学習支援センター及びゼミ担当教員で情報を共有し、相談及び指導を強化する。

Ⅱ 学生生活支援

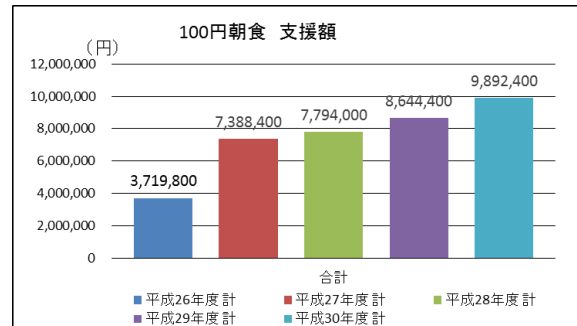
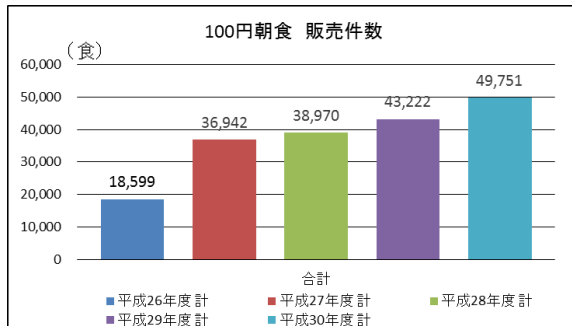
1. 経済的支援としての高等教育無償化への対応

2020年4月より実施される高等教育無償化制度（大学等で修学することが困難な低所得者世帯の学生に経済的負担を軽減することにより修学意欲をもたせ、社会で活躍する人材を育成し、我が国における急速な少子化に対処するため、①授業料及び入学金の減免と②給付型奨学金の支給を合わせて措置する制度）に申請を行う。この制度により経済的な理由で進学を断念せざるを得なかった学生の受入れを目指す。

2. 100円朝食の実施

2014年6月より健康な生活を送るため食育の一環として、キャンパス内の食堂等において、「100円朝食」を実施している。定価との差額は保護者会と大学で支援を行っている。

予算措置（保護者会支援）4,000,000円、（大学支援分）5,800,000円



3. クラブ活動支援・強化

2019年3月に設立される大学スポーツの新たな統括組織「大学スポーツ協会（UNIVAS）」へ加盟し、スポーツ選手の「学業充実」、「安心安全」、「事業・マーケティング」において、UNIVASと連携を行う。

UNIVASは、学生アスリートの学業と競技の両立を促すため、対外試合に出場できる学業成績の基準を設け、基準に満たない学生は出場停止の措置をとるなどの導入を目指している。

また、大学が学生に学習を促し、学業と競技を両立する模範的な学生を表彰する制度を設ける。

UNIVASに参加することで、大学が積極的に運動部に関与し卓越性を有する人材の育成、大学ブランドの強化及び競技力の向上を図る。

Ⅲ 国際交流

1. 交換留学生の受入れの促進及び海外協定校等との連携強化

交換留学生の受入れ人数（2018年度：半期24名）が、「和み館（留学生寮）」の定員（29名）に達するように、NIBES加盟校との個別協定を増やすことで、交換留学生（受入れ）の増加を目指す。

また、海外協定校等の外国人教員を外部特別講師として招聘し、NIBESを中心とした教員間の交流・活性化を目指す。

2. 正規留学生の受入れ

2019年度外国人留学生入試の志願者は過去5年間で最多となった（実人数31人＋Ⅱ期入試志願者数）。引き続き2020年度入試に向けて、県外、特に岡山県及び福岡県の日本語学校に対し積極的に広報を行い、優秀な正規留学生の入学者増を試みる。

3. 海外派遣学生数の増加を目指した取組み

シンガポールで実施している超短期体験型留学プログラムは、海外留学への動機付けの一手段として有効である。海外留学参加者を増加させるため、新たな超短期体験留学プログラム（台湾東呉大学）を策定する。

また、英語の語学留学プログラムはニュージーランドとカンボジアだけで、一部の学生のニーズに対応できていないため、新たな欧米での語学留学プログラムについて検討する。

Ⅳ 就職支援

1. オーダーメイドの就職支援

ゼミ担当教員とキャリアセンターが緊密に連携し、学生一人ひとりとの面談、履歴書の書き方、面接の受け方などきめ細かく就職活動をサポートする。3年次生から個別面談を実施することで、学生個々のパーソナリティや希望の進路を把握し、より質の高い「オーダーメイド」の就職支援を行う。

なお、2019年1月末現在の就職決定率は、95.3%である。

2. 学部・学科別就職支援

各学科で学んだことを活かせる就職支援を行うため、各学科別重点企業を設定し、求人開拓、企業訪問、学内合同企業説明会に取り組む。

3. 低学年次を対象とするキャリア教育の強化

低学年次から将来の進路を意識し、充実した大学生活を送ることができるよう「キャリア科目」、「興動人入門ゼミ」と連携し、体系的なキャリア形成に取り組める環境をつくることにより、自分に適した進路や職業選択に繋げる。

V 地域貢献・社会連携・社会貢献等 -5-

1. 産学官連携

企業、官公庁と大学の連携を行うための事前調査のために、2017年度に産学官連携推進助成金規程を整備し、2018年度より産学官連携のための事前調査に係る研究費の助成を開始した。2018年度は3件の助成申請があり、うち2件については2018年度内に産学官連携協定を締結、残り1件については2019年4月に締結予定である。2019年度は、研究成果及び実績を基にコーディネーターを中心に円滑な運営を支援し、5件以上の新規連携を目指す。

2. 生涯学習の推進

社会科学系総合大学の専門知識を活かし、ビジネスの現場で奮闘する社会人を対象に、キャリアアップ・プログラムを開講。また、歴史・文化・スポーツ・芸術など、教養教育を専門とする教員による、多様な分野のカルチャー講座を開講。これらの生涯学習をとおり、研究結果、経験で得た知見の社会還元を行う。

3. 図書館の一般開放

高校生以上の一般利用者に広く図書館施設を開放し、貸出やレファレンス等の図書館サービスを提供し、地域貢献を図る。

4. 和み館地域交流ハブの確立

和み館（留学生寮）の交流スペースを活用し、2018年度試験的に交換留学生と地域住民との小規模なサロンのイベントを2回行い、大変好評であった。2019年度も引き続き実施し、地域の国際化に貢献する。今後に向けてより多くの日本人学生を巻き込んだイベントとなるよう検討する。

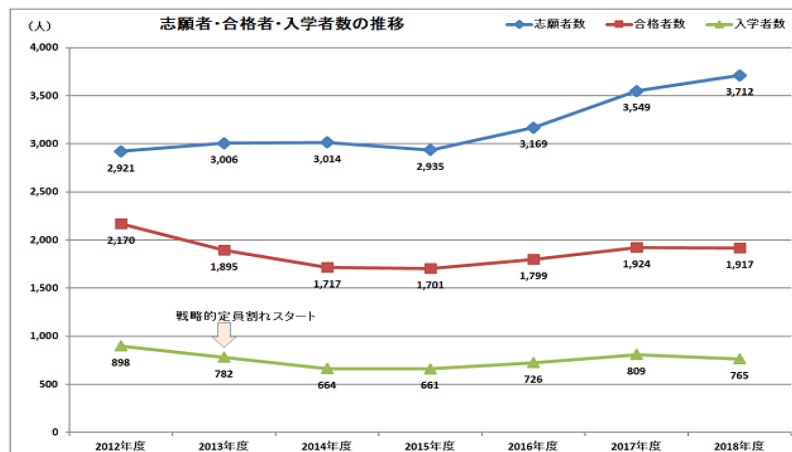
VI 入試・広報活動

1. 文部科学省入試改革方針に基づく入試制度の検討及び見直し

2021年度入試制度の改正実施を目指し「一般入試」、「推薦入試」、「AO入試」のあり方の見直しを行う。学力の3要素「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価する入試へ改善する。

2. 入試・教育改革の効果等の周知強化

本学が取り組んできた入試・教育改革の効果、特色ある興動館教育プログラムの教育成果など本学の魅力と学びの内容を周知し、より多くの受験生と優秀な入学生の確保に努める。そのため、高校訪問回数を増やし、新規訪問校を開拓する。また、ガイダンスについても関西エリアへの新規参加、九州エリアの拡大を行い接触者の増加を図る。



VII 施設設備・整備計画

1. 老朽化による改修

第3クラブハウス 屋根及び外壁改修（33年経過）

予算措置 33,070,000円

本館－図書館 渡り廊下屋根改修（21年経過）

予算措置 5,850,000円

総合グラウンド体育倉庫 屋根及び外壁改修（33年経過）

予算措置 3,640,000円

2. 空調設備の更新

本館・図書館 空調設備更新（18年経過）

予算措置 61,700,000円

図書館「知の系譜」空調熱源機器更新（21年経過）

予算措置 19,400,000円

3. 照明器具の更新（省エネ対策）

学生会館・6号館 照明器具（LED）更新（26年経過）

予算措置 47,520,000円

4. 機器備品の更新

Windows10対応（教室及び職員等PC約1000台）

予算措置 56,500,000円

図書館システム リプレース

予算措置 37,457,000円

教室用 プロジェクター8台更新

予算措置 9,000,000円

図書館蔵書用 複式書架増設

予算措置 4,950,000円

大会議室 プロジェクター更新及びディスプレイ新設

予算措置 7,020,000円

その他、法面の地盤維持確認、教室等施設設備の充実、省エネ対策などを行う。